

耳公民館だより



第53号 令和6年1月



(天王山と国吉城：中央小3階)

1月初め、この日しかないかと思わせる晴天。カメラをもって公民館を飛び出しました。耳地区のあちこちを回りましたが、結局となりの小学校からの景色が一番でした。敦賀半島の山も少し見えますが、さらに向こうには震災に見舞われた能登半島があります。復旧作業のためには1日でも多くの好天をと祈るばかりです。

大人のための絵本の時間 12/16(土)



絵本の読み聞かせだけじゃないんですよ… 次回ぜひご参加を

「弥美神社の大しめ縄ができるまで」写真展 — わら一本一本に願いをこめて —

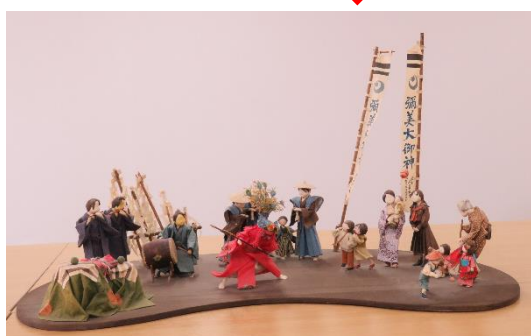
1/19(金)～



耳地区の写真家、伴和男さんのご協力により写真展を開催します。稲わらから縄をない、しめ縄に仕上げ、鳥居に設置するまでの一連の流れがよくわかります。ぜひ、ご来館ください。



そして、



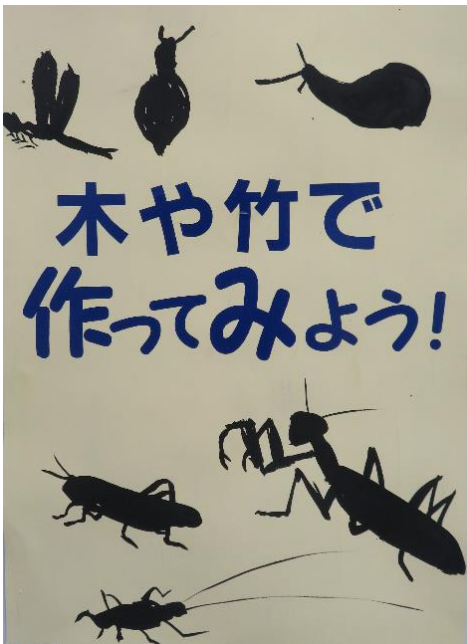
弥美神社の例大祭を表現した模型を館内に展示しました。とてもよくできています。見ていただくと、皆さんそれぞれに思い浮かべることがあると思います。



ロープワーク 12/23(日)



いろいろなものを使って
練習できるんですね



昆虫模型づくり講座

2月18日(日)
10:00~11:30

会場：耳公民館 研修室

参加費：100円

木と竹をどう使うか、
アイデアが生きる講座です。

館長のつぶやき

なわ

稲わらを編んで、つぎ足しつぎ足し、長いものや太いものを作り出す。縄は日本古来の伝統文化です。起源や歴史は私などが語るべきではありませんが、願いや祈りをこめて縄をない、それが神事に使われ、生活の中へ浸透していき様々な形に発展していったようです。

相撲の横綱がしめる縄、料理店の玄関の玉すだれ、祝いの席の酒樽など、じっくり考えればたくさん出てきます。国レベルの無形文化財「日向の水中綱引き」もすごい縄ですね。そして、今回の耳公民館の写真展「弥美神社の大しめ縄ができるまで」。

しめ縄は神聖な領域と外界を区切る意味があるようですが、家庭の「しめ飾り」もまた内と外を仕切り邪悪なものが入らないようにという願いがあるとか、また家と家を仕切ることから「縄張り」の意味もあります。

町内には四つの公民館があり、生涯学習センターなびあすと合わせ色々な企画や講座を実施しています。ともすると、「縄張り」意識が邪魔をすることもなきにしもあらずで、それこそ邪悪なものです。

美浜町の公民館の名称には「地区」という語は入っていません。町民の皆さんが各地区の公民館を抛り所としながらも、興味のあることは他の公民館へ出かけていただきたいと思いますね。

その中で耳公民館が注目されれば、なおありがたいです。これは、縄張りではなく「欲張り」でしょうか。